

集落協定 かわら版 (第9号)

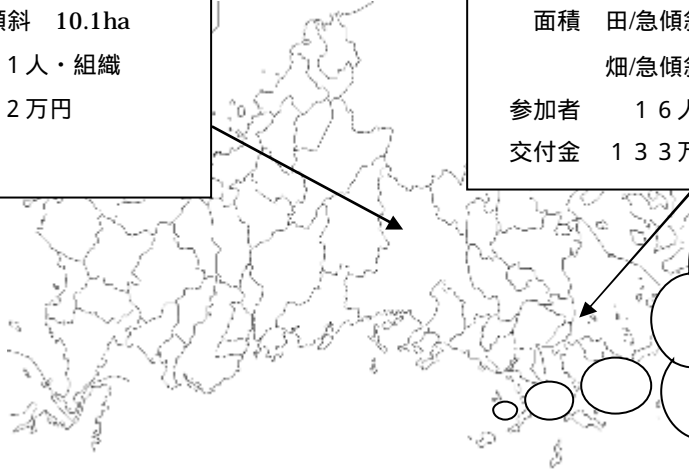
(平成16年7月12日 山口県農村振興課)

周南市東山集落協定

面積 田/急傾斜 10.1ha
参加者 21人・組織
交付金 212万円

大畠町大久保北集落協定

面積 田/急傾斜 5.8ha /緩傾斜 0.1ha
畑/急傾斜 0.9ha /緩傾斜 0.5ha
参加者 16人・組織
交付金 133万円



直接支払制度も今年で5年目を迎えます。今回は共同取組活動を中心にお話を伺いました。

話し合いを基本に、農地の保全に活用

・・・周南市中須北(なかすきた)
東山(ひがしやま)集落協定・・・

周南市中須の東山集落協定の佐伯伴章さん(45)を訪ねました。



(協定代表の佐伯さん、後ろの白い部分は棚田の石垣を補修した様子)

東山集落協定は中須地区でも棚田の多い協定ですね。

「この地区は、棚田が多く、地滑りが頻繁に起こる地滑り地帯なのですよ。」

協定の活動内容を教えてください。

「地域に暮らしていくための条件を整えていくことを基本に、生活の環境を良くすることをメインに考えています。」

「私たちの協定でも交付金の内、1/2を共同取組活動に使っていますが、集落全体での活用を図っています。」



(東山集落の棚田の様子)

具体的な活用方法を教えてください。

「ここでは、棚田の石垣の補修や水路の補修が恒常的に必要で、制度がはじまるま

では、少しくらい崩れてもほったらかしの人も出てきていました。そのために、大きな災害となることも少なくなかったように思います。協定ができて、管理者が見回りを行ったり、必要な補修に対して、わずかですが交付金を活用できるようにしたことで、農地を守っていこうという意識が強くなったと思います。」



(交付金を活用し補修した水路と景観作物アークトセカ)

そうやって、棚田が維持されるのですね。景観の保全では、他にも取組を行っているのですか。

「景観作物として、「アークトセカ」を法面に作付けています。将来、花がいっぱい咲くのが楽しみです。この地域は、都市から訪れる人も多い地域です。訪れる人がいいなと思う地域になればと思っています。結構、法面の補強にもなるんですよ。」

棚田で農業を続けていくのは大変ですね。その他には。

「イノシシの対策として、電気柵を設置しました。」

「東山集落も高齢化してきています。若い人に残ってもらって田を預かって欲しいと考えています。でも、トラクターが入らない田も少なくありません。ですから、田

に機械が入るように、田の入り口を改修する事を進めています。また、トラックが離合できる作業道の確保も今後の課題です。」

地域づくり活動も盛んに行われているとか。

「東山集落を含めた5集落99戸で『棚田清流の会』ができています。清流の会では、地域づくり活動を中心に活動をしています。」

具体的な活動は。

「竹やぶの除去や地域の環境整備、棚田オーナー制度などの都市農村交流も行っています。」

「竹やぶの除去は、地域の住民に大きなインパクトがあったようです。地域が良くなる実感が出たと言われます。」

「棚田オーナー制度の取組は、地域と都市の人達を結びつける活動です。今では、私より熱心に田の管理をするオーナーの方もいらっしゃるほどで、どしどし都市の人も地域に入ってもらいたい。地域の様々な活動が活発になることはうれしいことです。」

東山集落協定の今後の計画を教えてください。

「担い手の定着や育成を考えています。そのためにも、生活環境にも配慮した交付金の活用が必要です。例えば、農道の道幅の確保などです。」

「大きくなると舵取りが難しいと思いますが、地域活動と集落協定の範囲についても、検討が必要と考えています。」

「集落協定がはじまってから、自分が住んでいるところがどんなところなのか。みんなが見つめ直しはじめた気がします。これから協定の活動計画を実現したいと思い

ます。」

最後に協定や集落の活動を行うに当たってのモットーを教えてください。

「協定の話し合いを行う時に、集落内の女性や長老にも意見を聞くことですね。ある程度の案は、世話役で決めますが、決定は、集落全体の合意を基本としています。また、次世代への引き継ぎとか、棚田を維持していくとか目的を持って活動することですかね。」

*****農地の保全をベースに、地域全体の活動にも役だっているようです。生活環境の整備が中山間地域では大切ですね。(井上)

複数の協定が連携した地域活性化の取組

・・・大島町

大久保北(おおくぼきた)集落協定・・・

大島町の大久保北集落協定の中元茂雄さん(57)を訪ねました。



(代表の中元さん)

ここでは、年2回の畦草刈り、集落の農道管理、春と秋の荒神まつり、夏まつりと秋まつり、三世代で取り組んでいる盆おどり、8月の『やまびこセンター』の清掃、墓所の草刈り、泥落とし行事、研修会の開催と多くの活動をされています。今回は、

「かわら版第6号」で紹介しました共同取組活動で行った景観作物(菜の花)を活用したイベントの続編をお伝えします。

周辺の協定とも協力し『三つ葉春まつり』を開催されたそうですね。まつりの目的と内容を教えてください。



(三つ葉春まつり(やまびこセンター))

「協定を進めていくうちに、集落協定の取組を、都市住民に理解してもらう事ができないかと考えるようになりました。役場からの支援もあって、近隣の坂川、西畑、大久保南の協定とも話し合い、連携することで、まつりを開催しました。これがその時の『春まつり』の様子です。」

「はじめての試みでしたが、大変にぎわいました。300人用のジャンボ鍋を用意したのですが、スタッフの分は足りなかった状況でした。」

盛況だったようですね。

「まつりには、集落のみんなが参加してくれました。子供会は、2週間ぐらいかけてマップを作成したんですよ。以前に、集落の点検をしていたんですけど、子供の目から見た集落の様子をマップにまとめました。」

集落の宝物ですね。ところで、イベントの費用は。

「3つの地区で、公平に負担しました。地域にあるものを上手に活用して手作りで実施しました。交付金も役に立ちましたが、金額的なもの以上に、動機付けとしての効果が大きいと思います。」



(子供会で作った地域のマップ)

イベントのスタッフは。

「集落のみんなが関わっています。協定関係者はもちろん、消防団、子供会、生活改善グループもスタッフとして参加してくれています。」

「みなさん、前向きに取り組んでくれました。打ち上げも盛り上がりました。」

イベントのやり方はいかがでしたか。

「役場に指導してもらいました。また、消防団にも協力してもらっています。やはり、人数を扱うのは、協定だけでは難しい面もあります。」

「大畠教育委員会の『歩け、歩け大会』のイベントも重ねて実施したんです。ですから、いろいろな方面からの協力をもらいました。」

イベント参加者の反応は。

「こんな棚田が、身近にあったことに気が付かなかったとか、これからも地域の活動に参加したい。また、訪れたいなどの意見がありました。」

イベントに関わった方の反応は。

「協定関係者はもちろん、消防団、子供会、生活改善グループ、スタッフとして参加した方すべてが、やって良かったと言っていますよ。」

これからの予定は。

「協定の活動は、これからも続けていきたいと思います。中山間地域では、いまの協定が絶対必要だと思っています。」

「水路の保全は今後も必要ですね。それから、竹林の問題もあります。」

「都市住民との交流イベントは、近隣の協定とも協力して、今後もやっていくつもりです。」

協定で地域は変わりましたか。

「なにごとについてもみんなが協力的になりました。集落や地域がまとまってきたと思います。」

協定での共同取組活動や交付金を上手に使うコツはなんでしょう。

「協定参加者、集落のみなさんが何をしたいのかについて、十分に話をし、意見を聞くことだと思います。集落の中には、老人会、子供会、消防団、その他いろいろな人材がいます。また、様々な集会もあります。私たち協定の役員は、なにごとについてもみんなの意見をくみ上げるようにしています。役員の情報網がキーポイントです。もちろん難しい時もあります。でも、話し合いが大切ですね。」

*****共同取組活動を行うに当たって、協定関係者はもちろん、消防団、子供会、生活改善グループなどのみなさんとの意志疎通ができていますね。(井上)

~~~~ 編集後記 ~~~

制度の最終年となりました。話し合いを行い、協定の目的を達成しましょう。

県では、制度の継続、充実・強化に向けた要望を行っています。(制度担当者)